

1 めあて

マット運動のねらい1では、開脚前転、開脚後転をモデルで示し学習内容の見通しをもたせることで、児童の学習意欲を高めていく。前転、後転から開脚前転、開脚後転に至るまでの毎時間のめあてをスモールステップで設定する。ねらい2では、補助倒立、側方倒立回転に挑戦させていく。グループでかかわり合いながら主体的に学習できるよう、学習の流れを定着させるとともに運動を行う際のルールを徹底させられるよう支援を行う。本単元のねらいが達成できるよう、主運動につながる動きをパワーアップタイムで身に付けさせていく。頭、ひじ、手、ひざ、指先を常に意識できるよう範を示しながら指導をすることで安定した技につながる授業を展開していきたい。

2 展開

視点1できないことができるようになる喜びを味あわせる工夫。

- ① 児童の技能習得を図るため、活動時間を確保する。

バスケットボールのコートのカラーテープを利用して、マットを置く場所を決め、毎時、児童がスムーズに準備ができるようになった。また、場を8つ設定して2分ずつ様々な技に同じ時間だけ取り組むようにした。



事前アンケートで、マット運動に対する恐怖心が強いと分かったので、壁倒立の場には柔らかいマットを壁に設置した。

② 単元を通してパワーアップタイムに取り組む。



基本的な技にどの児童にも取り組んでほしいという思いから、パワーアップタイムでは「前転」「後転」「蛙のあしうち」「腕立て横跳び越し」「開脚前転」「開脚後転」「肋木倒立」「ゆりかご」の8種目の場を設けた。2分ずつ取り組むことで、マット運動の基礎感覚を養いつつ、発展技につながるようにした。

③ 学習への意欲づけを図るため、体育ノートに継続して取り組む。



単元の当初は「楽しかった」など漠然とした振り返りを書く児童が多かった。しかし、学習が深まってくると、「両膝がそろってきた」「次回は腰が上がるようになるといい」など、技の具体的なポイントに触れながら振り返りや課題を書くようになった。

視点2 児童がかかわり合いを深め、意欲的に学ぶ活動の工夫

① 見合ったり、教え合ったりすることができる学習の場を工夫する。



技のイラストと3つのポイントをマットのそばのコーンに設置し、児童が見る視点を明確にして見合ったり、教え合ったりできるようにした。

学習の振り返りの際に、友達の良いポイントなどを発表して児童同士が認め合う雰囲気を作れるようにした。

